

秋田県におけるマルケシゲンゴロウ属（ゲンゴロウ科）2種の記録

Distributional record of *Hydrovatus* Motschulsky, 1853 (Dytiscidae) from Akita Prefecture, Japan

内田大貴^{1,2*}・岩田泰幸^{1,3}・長船裕紀⁴・渡部晃平⁵

Daiki Uchida^{1,2*}, Yasuyuki Iwata^{1,3}, Yuuki Osafune⁴, Kohei Watanabe⁵

¹埼玉県立自然の博物館（外部研究者），埼玉県長瀬町大字長瀬1417-1

²大日本ダイヤコンサルタント（株），埼玉県さいたま市中央区新都心11-2 L.A.タワー

³公益財団法人文化財虫菌害研究所，東京都新宿区新宿2-1-8

⁴一般社団法人鳥海山・飛島ジオパーク推進協議会，秋田県にかほ市象潟町字大塩越36-1

⁵石川県ふれあい昆虫館，石川県白山市八幡町戊3

¹Saitama Museum of Natural History (External researcher), 1417-1 Nagatoro, Nagatoro-Machi, Saitama 369-1305, Japan. ²Dia Nippon Engineering Consultants Co.,Ltd., L.A. Tower, 11-2, Shintoshin, Chuo-ku, Saitama-shi, Saitama 330-6011, Japan. ³Japan Institute of Insect and Fungal Damage to Cultural Properties, Shinjuku 2-1-8, Shinjuku-ku, Tokyo 160-0022, Japan. ⁴Mt.Chokai - Tobishima Island Geopark Promotion Council, Kusakata Ooshiokoshi 36-1, Nikaho-shi, Akita 018-0121, Japan. ⁵Ishikawa Insect Museum, Inu-3, Yawata-machi, Hakusan-shi, Ishikawa 920-2113, Japan.

*Corresponding author, e-mail: aquariumdaiking@gmail.com

Abstract

Two species of the genus *Hydrovatus* Motschulsky, 1853—*H. onigiri* Watanabe & Biström, 2022 and *H. stridulus* Biström, 1997—were collected from a pond in Nikaho City, Akita Prefecture, northern Honshu, Japan. Two species were found sympatrically in a pond characterized by rich emergent vegetation and humic bottom sediments. Their coexistence in this habitat, where exotic species such as *Procambarus clarkii* and *Micropterus nigricans* were also observed, suggests that *Hydrovatus* populations in this pond are potentially vulnerable. Continuous monitoring of the habitat is recommended for conservation purposes.

Key words: Insecta; Hydroporinae; *Hydrovatus stridulus*; *Hydrovatus onigiri*; the foot of Mt. Chokai; Akita Prefecture; sympatric; pond; emergent plant

緒言

マルケシゲンゴロウ属 *Hydrovatus* Motschulsky, 1853（以下、マルケシ属と記載）はゲンゴロウ科 Dytiscidae に属し、短卵または円形に近似する体型をした体長 1.6–5.3 mm の小型種で主に構成される（森・北山 2002; Miller and Bergsten 2016; 渡部 2016）。国内からはこれまでに 10 種が記録されており（中島ら 2020; Watanabe and Biström 2022）、近年の研究の進展により複数の隠蔽種の存在が明らかになっている。従来、日本でマルケシゲンゴロウ *H. subtilis* Sharp, 1882（以下、マルケシと記載）と

されていた種には、標本の再検討により、サメハダマルケシゲンゴロウ *H. stridulus* Biström, 1997（以下、サメハダと記載）、チュウガタマルケシゲンゴロウ *H. remotus* Biström & Watanabe, 2017（以下、チュウガタと記載）、オニギリマルケシゲンゴロウ *H. onigiri* Watanabe & Biström, 2022（以下、オニギリと記載）の3種が含まれる事が明らかにされている（上手・渡部 2025）。

マルケシ属は主にため池や水田、湿地等を生息環境とするが（中島ら 2020）、近年はこうした環境の消失や水質汚染等による生息条件の

悪化により、本属各種は減少が懸念されており、国内から記録されている種の半数以上が「環境省版レッドリスト 2020」（環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 2020）および多くの都府県版レッドデータブックにそれぞれ掲載されている（NPO 法人 野生生物調査協会・NPO 法人 Envision 環境保全事務所 online）。また、現在の選定ランクはマルケシの分類学的な再検討がおこなわれる以前の評価であることから、特に本州で最近記録されたサメハダとオニギリの両種は、絶滅危惧種としての評価が変動する可能性が指摘されており（渡部 2016; 澤田ら 2022）、正確な分布状況の解明は急務となっている。

東北地方ではマルケシ属の記録は極めて少なく、近年まで福島県から 1 種が記録されているのみであった。阿部（1990）は福島県から“コマルケシゲンゴロウ *Hydrovatus subtilis* Sharp”を記録したが、和名と学名とで指す種が異なっている。吉井ら（2015）は、この記録を引用し、福島県のゲンゴロウ科のリストにコマルケシゲンゴロウを含めている。しかしながら、記録された標本を収蔵する神奈川県立生命の星・地球博物館の目録によると、この標本は“マルケシゲンゴロウ *H. subtilis* Sharp, 1882”として掲載されていることから（神奈川県立博物館 1995）、実際に福島県で採集されたのはマルケシが含まれる *H. confertus* 種群に属する種である可能性が高い。また、最近秋田県北部の男鹿市でサメハダが発見された（細見 2026）。

著者らは秋田県南部においてオニギリとサメハダの生息を確認した。オニギリは東北地方未記録であることから、東北地方初記録かつ、本種の分布北限を更新する採集記録となる。サメハダは細見（2026）が記録した場所から大きく離れているため、両種の分布記録としてここに報告する。

材料および方法

採集調査は、2025 年 9 月および 10 月に秋田県南部に位置するにかほ市の水域 1 地点で、手

網（網目 0.4 mm）を用いて行った。調査地では、同所的に希少種の生息を確認していることから、採集圧を考慮して、本研究では地名を市単位までの標記にとどめ、詳細は伏せた。

採集個体は持ち帰り、70%エタノール水溶液で固定し、種同定後に乾燥標本を作製した。本研究に用いた標本は、秋田県立博物館の昆虫標本資料（AKPM-I）として登録した。なお、標本に付属したラベルには詳細な地名情報を記載した。

生息環境の参考として、採集地点において水温を温度テスター HI98509（ハンナインスツルメンツ製）にて測定した。

結果

節足動物門 Phylum Arthropoda

昆虫綱 Class Insecta

コウチュウ目 Order Coleoptera

ゲンゴロウ科 Family Dytiscidae

オニギリマルケシゲンゴロウ

Hydrovatus onigiri Watanabe & Biström, 2022

(Fig. 1)

標本 AKPM-I 52250–52252、1 雄 2 雌、秋田県にかほ市、2025 年 9 月 12 日、内田大貴採集；AKPM-I 52301–52310、4 雄 6 雌、同所、2025 年 10 月 17 日、高野季樹採集

形態学的特徴と同定 上記 13 標本は前胸腹板突起が丸みを帯びた三角形であること、雄触角の幅が 4–6 節で広がること、雄腹面の隆起線列の発達が弱いこと、雄交尾器中央片の先端背面が丸みを帯びた三角形になる点などが、Watanabe and Biström（2022）に記載されたオニギリの標徴と一致したため、本種と同定された。

分布 本種は、日本国内のみに分布し、本州（新潟、石川、栃木、愛知、三重、和歌山、滋賀、大阪、兵庫、岡山、広島、島根、山口）、四国（香川、愛媛、高知）、九州（福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎）、上甕島、対馬、種子島から

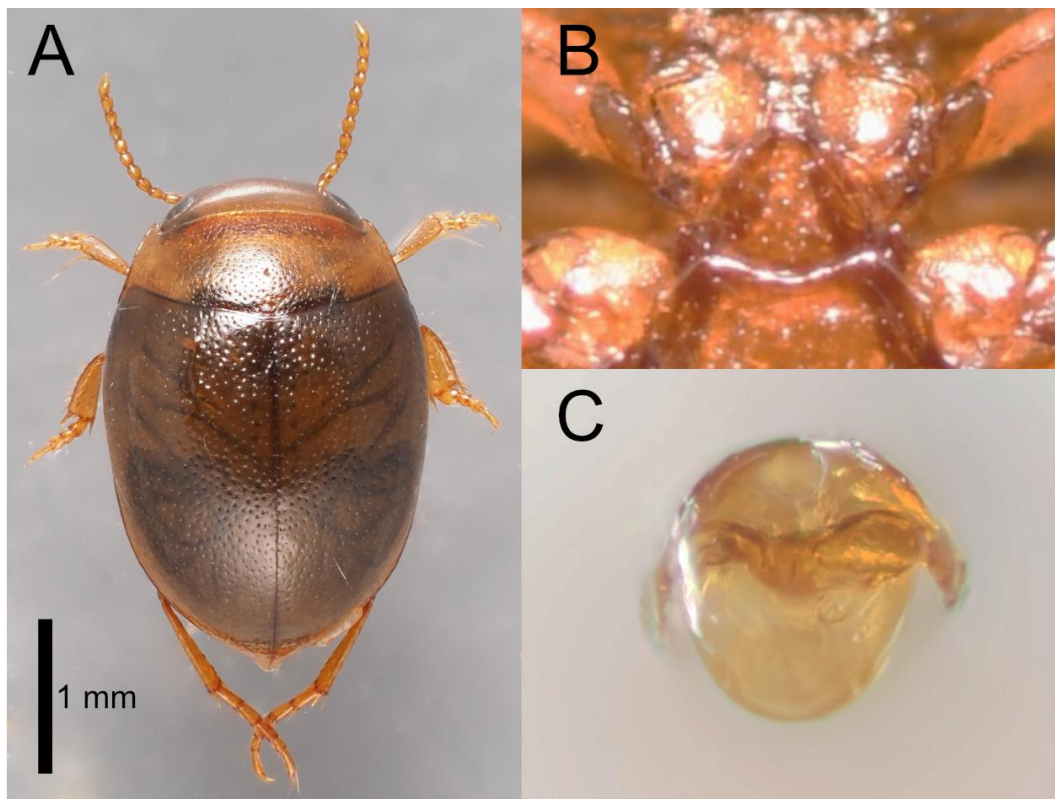


Fig. 1. *Hydrovatus onigiri* Watanabe & Biström, 2022 (A, Dorsal view, Scale bar: 1 mm; B, Prosternal process; C, View of penis apex).

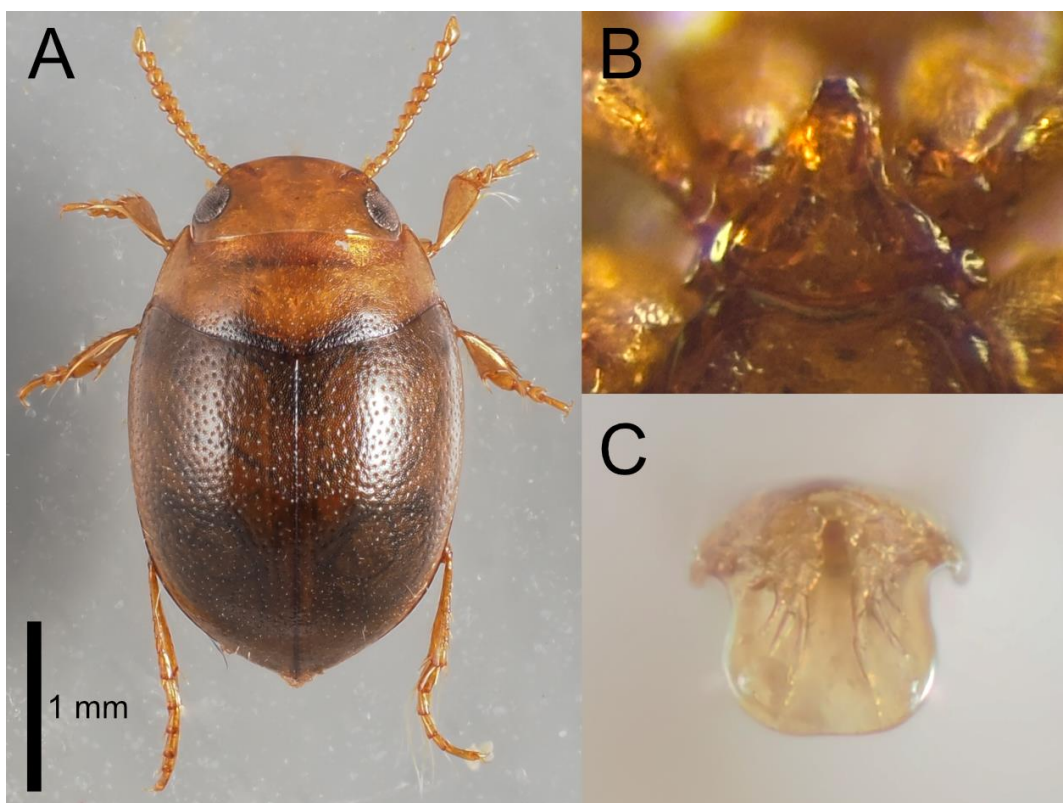


Fig. 2. *Hydrovatus stridulus* Biström, 1997 (A, Dorsal view, Scale bar: 1 mm; B, Prosternal process; C, View of penis apex).

記録されている (Watanabe and Biström 2022; 井上ら 2022; 村上 2023; 三宅 2023; 築島 2023; 渡辺ら 2024; Koshikawa et al. 2025; 内田ら 2025)。今回の記録は、本種の秋田県初記録であると同時に、東北地方での初記録かつ、分布北限・東限となる。

サメハダマルケシゲンゴロウ

Hydrovatus stridulus Biström, 1997

(Fig. 2)

標本 AKPM-I 52249、1 雄、秋田県にかほ市、2025 年 9 月 12 日、内田大貴採集; AKPM-I 52297–52300、4 雄、同所、2025 年 10 月 17 日、高野季樹採集

形態学的特徴と同定 上記 5 標本は前胸腹板突起が凸型、雄触角の幅が 5–8 節で広がること、上翅の光沢が弱く網状印刻が顕著であること、雄交尾器中央片の先端背面が丸みを帯びた四角型である点などが、Biström (1997) や Biström and Watanabe (2017)、稲畑 (2016)、渡部 (2016)、中島ら (2020) に記載されたサメハダの標徴と一致したため、本種と同定された。

分布 本種は、国内では本州 (秋田、栃木、群馬、茨城、埼玉、千葉、静岡、富山、石川、福井、愛知、滋賀、兵庫、岡山、島根)、九州 (熊本)、南西諸島 (奄美大島、徳之島、伊平屋島、沖縄島、座間味島、久米島、池間島、宮古島、石垣島、小浜島、西表島、与那国島)、国外では台湾、タイ、マレーシア、シンガポール、ラオスから記録されている (Biström 1997; Brancucci and Biström 2013; 稲畑 2016; 渡部 2016; 渡部ら 2016, 2022; 渡部・保科 2016; 戸田 2017; 吉村・渡部 2017; 末長ら 2017; 亀澤・渡部 2018; 仲田 2018; 司村 2018; 井上・渡部 2018; 佐野ら 2019; 林 2020; Watanabe et al. 2018, 2020; 澤田ら 2022; 中村ら 2023; 森 2024; 村上 2024; 加藤・渡部 2023, 2025; Koshikawa et al. 2025; 細見 2026)。秋田県では、これまでに北部の男鹿市のみで記録されており (細見 2026)、今回の記録は県内 2 例目となる。

2 種の生息環境 オニギリおよびサメハダの両種が採集された環境はため池 (Fig. 3) であり、海域から直線距離で 2 km 圏内の沿岸部に位置し、採集地点における池の水深は約 90 cm であった。池底は枯死木や枯葉などの腐植質が堆積



Fig. 3. Collection site on Akita Prefecture.

した状態であった。池の大部分に浮葉植物が繁茂し、岸際は抽水植物が根をせり出すような形で生育して一部が浮島状となっていた。採集地点の水温は 2025 年 9 月 12 日が 26.4 °C、2025 年 10 月 17 日が 20.4 °C であった。両種は同所的に確認されており、特に浮島状になった抽水植物群落の根塊内とその下部から多くが採集された。同所的にコツブゲンゴロウ *Noterus japonicus* Sharp, 1873、キベリクロヒメゲンゴロウ *Ilybius apicalis* Sharp, 1873、ルイスツブゲンゴロウ *Laccophilus lewisius* Sharp, 1873、タマガムシ *Amphiops mater* Sharp, 1873 などが確認された。なお、水域内では特定外来生物に指定されている甲殻類のアメリカザリガニ *Procambarus clarkii* (Girard, 1852) や、魚類のオオクチバス *Micropterus nigricans* Cuvier, 1828 も多数確認された。

考察

本研究ではオニギリとサメハダが同所的に確認された。マルケシ属の複数種が混生する事例はいくつか知られているが、*H. confertus* 種群に属する複数種が同所で確認されるのは、国内では南西諸島以南に限られていた。すなわち、南西諸島に分布するチュウガタとサメハダの混生である（例えば、稲畑 2016; Biström and Watanabe 2017）。九州以北では、サメハダとオオマルケシゲンゴロウ *H. bonvouloiri* Sharp, 1882 (*H. oblongipennis* 種群)、オニギリとチビマルケシゲンゴロウ *H. pumilus* Sharp, 1882 (*H. pumilus* 種群) のように種群が異なる複数種の混生事例は存在するものの（例えば、末長ら 2017; 秋田ら 2024; 内山ら 2024; 渡辺ら 2024）、ともに *H. confertus* 種群に属するオニギリとサメハダの混生が確認されたのは、今回が初めてである。

オニギリとサメハダが好む生息微環境は未解明であるが、これまでの報告によると、オニギリは植物が豊富で水質が良好な池沼の岸際や休耕田などの浅い湿地で確認されている（廣渡ら 2024）。一方、サメハダは植物が豊富な浅

い水田等の湿地環境に加えて、ため池などの水深の深い場所でも確認されている（稲畑 2016; 中島ら 2020; 長谷川ら 2020）。特に本州では池などの十分な水量を有し、安定した箇所での生息が多く報告されている（例えば、渡部・保科 2016; 末長ら 2017; 佐野ら 2019; 澤田ら 2022; 内山ら 2024; 内田ら 2025）。したがって、既知研究に則れば、オニギリとサメハダは両種が分布する九州以北において選好する環境が異なる可能性があり、棲み分けにより同所的には得られにくいと考えられる。本研究における両種の確認水域は、巨視的にみると水量の安定した水深が深いため池に区分されるが、両種が得られた地点を微視的に見ると、岸際より浮島状にせり出した植物の根塊から水面までの水深は約 10 cm 前後のため、これは浅い湿地とも見なせる。両種の選好する環境要素は依然として不明であるものの、このような多様な微環境を含む事により、両種が同所で観察されたものと考察される。2025 年の調査ではオニギリがサメハダよりも多く確認されたことから、現状ではオニギリの好む要素が多く、この混生が一時的なものなのか、継続的に両種が混生しうるのかを明らかにするためには、近隣を含めた継続的な調査が必要である。

これまでに筆者らは秋田県にかほ市周辺の止水域を中心とした網羅的な水生昆虫調査を実施しているが、マルケシ属が採集されたのは本研究の 1 地点のみである（内田大貴・岩田泰幸・高野季樹 未発表データ）。東北地方におけるマルケシ属は、これまでも福島県いわき市と秋田県男鹿市で得られた記録のみ（阿部 1990; 細見 2026）であることも踏まえると、東北地方全体ではオニギリとサメハダのみならず、マルケシ属自体の生息数が少なく、生息地が局所的であると考えられる。一方、当地ではオオクチバスやアメリカザリガニなど水生昆虫類の生息に悪影響を及ぼす外来生物（西原 2007; 苅部・西原 2011）が調査時に多数確認されており、本調査地におけるマルケシ属 2 種の生息は予断を許さない状況にある。このため、保全的視点

からも、生息状況の継続的なモニタリングと外来種等の影響による生息環境の動向への注視、防除対策の検討が求められる。

謝辞

本研究を進めるにあたり、現地調査へのご協力と標本提供を賜った高野季樹氏、標本の収蔵の際便宜を図っていただいた秋田県立博物館の藤中由美学芸員、採集地の情報をご提供いただいた内山龍人氏に心より御礼申し上げます。本調査は、令和7年度秋田県ジオパーク研究助成事業の助成（研究代表者：岩田泰幸）を受けて実施した。

引用文献

- 阿部光典 (1990). 南方系のゲンゴロウ 2 種, 北限の記録. 甲虫ニュース 89: 4.
- 秋田勝巳・荻部治紀・津田正太郎・柳 丈陽・北野 忠・小田切頭一・荒谷邦雄 (2024). 三重県および和歌山県で採集されたチビマルケシゲンゴロウ. さやばねニューシリーズ 53: 20–22.
- Biström, O. (1997). Taxonomic revision of the genus *Hydrovatus* Motschulsky (Coleoptera, Dytiscidae). *Entomologica Basiliensia* 19: 57–584.
- Biström, O., Watanabe, K. (2017). A new species of the genus *Hydrovatus* (Coleoptera, Dytiscidae) from Iriomote Island, southwestern Japan, with a key to the Japanese species. *Elytra, New Series* 7: 5–13.
- Brancucci, M., Biström, O. (2013). Review of the Hydrovatini, Hygrotini and Hyphydrini in Laos (Coleoptera, Dytiscidae). *Entomologica Basiliensia et Collectionis Frey* 34: 89–102.
- 長谷川道明・蟹江 昇・戸田尚希 (2020). サメハダマルケシゲンゴロウ *Hydrovatus stridulus* Biström. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち 2020-動物編-. (編) 愛知県環境調査センター. 愛知県環境局環境政策部自然環境課, 愛知, p. 383.
- 林 成多 (2020). 改訂 島根県の水生甲虫 (1). ホシザキグリーン財団研究報告特別号 25: 1–84.
- 廣渡俊哉・荒谷邦雄・青木卓也・今坂正一・小川浩太・小田切頭一・紙谷聡志・城戸克弥・國分謙一・佐々木公隆・中島 淳・福田 治・三田敏治・屋宜禎央 (2024). オニギリマルケシゲンゴロウ. 福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2024-. (編) 福岡県環境部自然環境課. 福岡県環境部自然環境課, 福岡, p. 534.
- 細見周平 (2026). サメハダマルケシゲンゴロウを秋田県で確認. 月刊むし 659: 60–61.
- 稲畑憲昭 (2016). サメハダマルケシゲンゴロウの日本からの初記録. さやばねニューシリーズ 21: 46–47.
- 井上大輔・伊藤 昂・渡部晃平 (2022). 種子島におけるオニギリマルケシゲンゴロウ (コウチュウ目, ゲンゴロウ科) の初記録. 昆虫 (ニューシリーズ) 25: 193–194.
- 井上大輔・渡部晃平 (2018). 池間島におけるサメハダマルケシゲンゴロウの初記録. さやばねニューシリーズ 29: 55–56.
- 亀澤 洋・渡部晃平 (2018). 埼玉県からのサメハダマルケシゲンゴロウの記録とマルケシゲンゴロウの記録抹消. 寄せ蛾記 170: 39–40.
- 上手雄貴・渡部晃平 (2025). 1 日本産ゲンゴロウ上科の分類について. ゲンゴロウ類の生態学. (編) 大庭伸也. 北隆館, 東京, p. 10–23.
- 神奈川県立博物館 (編) (1995). 阿部光典ゲンゴロウ類コレクション標本目録. 神奈川県立博物館自然部門資料目録, (8), 神奈川県立生命の星・地球博物館.
- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 (2020). 環境省レッドリスト 2020 の公表について. <https://www.env.go.jp/press/107905.html>. (参照 2025 年 10 月 24 日).
- 荻部治紀・西原省吾 (2011). アメリカザリガニによる生態系への影響とその駆除手法. エビ・カニ・ザリガニ: 淡水甲殻類の保全と生物学. (編) 川井唯史・中田和義. 生物研究社, 東京, p. 315–330.
- 加藤雅也・渡部晃平 (2023). 南西諸島に属する島における水生昆虫 3 種 (カメムシ目およびコウチュウ目) の初記録. *Fauna Ryukyuna* 68: 1–4.
- 加藤雅也・渡部晃平 (2025). 6 種の初記録を含む座間味島における水生昆虫 8 種 (カメムシ目・コウチュウ目) の記録. *Fauna Ryukyuna* 74: 1–6.
- Koshikawa, R. W. A., Uchida, D., Kurihara, T., Watanabe, K., Sano, S., Yamasaki, S., Iwata, Y. (2025). The Genus *Hydrovatus* Motschulsky, 1853 (Coleoptera, Dytiscidae) in Tochigi Prefecture, central Honshu, Japan, including an easternmost record of *Hydrovatus onigiri* Watanabe et Biström, 2022. *Aquat. Anim.* 2025: AA2025-60.
- Miller, K. B., Bergsten, J. (2016). Diving Beetles of

- the World- Systematics and Biology of the Dytiscidae. Johns Hopkins University Press, Baltimore.
- 三宅 武 (2023). 初夏の中津市野依新池での採集記録. 二豊のむし 61: 76-77.
- 森 正人 (2024). 兵庫県のゲンゴロウ類目録 (1). きべりはむし 47 (2): 1-11.
- 森 正人・北山 昭 (2002). 改訂版 図説日本のゲンゴロウ. 文一総合出版, 東京.
- 村上大介 (2023). 滋賀県におけるオニギリマルケシゲンゴロウの記録. さやばねニューシリーズ 49: 44-45.
- 村上大介 (2024). 滋賀県におけるサメハダマルケシゲンゴロウの初記録. さやばねニューシリーズ 53: 38-39.
- 中島 淳・林 成多・石田和男・北野 忠・吉富博之 (2020). ネイチャーガイド日本の水生昆虫. 文一総合出版, 東京.
- 中村 涼・菅谷和希・佐野真吾・渡部晃平 (2023). 千葉県におけるサメハダマルケシゲンゴロウの初記録とマルケシゲンゴロウの記録削除. さやばねニューシリーズ 49: 19-20.
- 仲田彰男 (2018). 浜松市の旧養鰻池で採集した水生昆虫. 駿河の昆虫 262: 7172-7175.
- 西原省吾 (2007). 虫屋が実践する昆虫の保全 (4) ゲンゴロウ類. 外来生物の侵入と採集圧の問題. 月刊むし 441: 42-51.
- NPO 法人 野生生物調査協会・NPO 法人 Envision 環境保全事務所 (online) 日本のレッドデータ検索システム. <https://jpnrd.com/>. (参照 2025 年 10 月 24 日).
- 佐野真吾・内田大貴・新中健斗・渡部晃平 (2019). 群馬県および茨城県におけるサメハダマルケシゲンゴロウの初記録. さやばねニューシリーズ 34: 22-23.
- 澤田研太・岩田朋文・惣名 実 (2022). 富山県におけるマルケシゲンゴロウ属の記録総括と現況. 富山市科学博物館研究報告 46: 19-26.
- 司村宜祥 (2018). 久米島から水生甲虫 2 種を記録. さやばねニューシリーズ 29: 53.
- 末長晴輝・渡部晃平・山地 治 (2017). 岡山県におけるサメハダマルケシゲンゴロウとオオマルケシゲンゴロウの初記録. さやばねニューシリーズ 28: 51-52.
- 戸田尚希 (2017). サメハダマルケシゲンゴロウが愛知県にも分布. 佳香蝶 69 (271): 47-48.
- 築島基樹 (2023). 甌島におけるオニギリマルケシゲンゴロウの採集記録. KORASANA 101: 203.
- 内田大貴・岩田泰幸・荒井康充 (2025). 羽生水郷公園で確認された湿地性昆虫類 (コウチュウ目・カメムシ目). 埼玉県立川の博物館紀要 25: 33-40.
- 内田大貴・奥田恭介・渡部晃平 (2025). 佐賀県におけるオニギリマルケシゲンゴロウの記録. さやばねニューシリーズ 60: 81-82.
- 内山龍人・高野季樹・谷野彩奈・國分直人・大宮悠・内田大貴 (2024). 筑波研究学園都市の遊水地で確認された水生昆虫類. るりぼし 55: 58-64.
- 渡部晃平・富沢 章・稲畑憲昭 (2016). 本州におけるサメハダマルケシゲンゴロウの初記録. さやばねニューシリーズ 23: 15-16.
- 渡部晃平・保科英人 (2016). 福井県におけるサメハダマルケシゲンゴロウの記録と生息地保全に向けた対応. さやばねニューシリーズ 24: 33-35.
- 渡部晃平 (2016). 石川県におけるマルケシゲンゴロウ属の分布. さやばねニューシリーズ 24: 53-56.
- Watanabe, K., Liu, H. C., Mitamura, T., Yoshii, S. (2018). New distributional records of dytiscid beetles (Coleoptera, Dytiscidae) from Taiwan. Elytra, New Series 8: 429-430.
- Watanabe, K., Inahata, N., Biström, O. (2020). A distributional review of the genus *Hydrovatus* (Coleoptera: Dytiscidae) from the Ryukyus, southwestern Japan. Jpn. J. Syst. Entomol. 26: 111-118.
- Watanabe, K., Biström, O. (2022). A new species of the genus *Hydrovatus* Motschulsky (Coleoptera: Dytiscidae) from Japan. Coleopt. Bull. 76: 115-121.
- 渡部晃平・松井英司・長浜朋昭・中園洋行・稲畑憲昭 (2022). 九州におけるサメハダマルケシゲンゴロウ (コウチュウ目, ゲンゴロウ科) の初記録. 昆虫 (ニューシリーズ) 25 (4): 183-186.
- 渡辺黎也・犬童淳一郎・一柳英隆 (2024). 熊本県球磨地方の迫田における水生コウチュウ・カメムシ目の記録. 環動昆 35: 9-15.
- 吉井重幸・平澤 桂・三田村敏正 (2015). 福島県産ゲンゴロウ目録 50 種. ふくしまの虫 33: 20-29.
- 吉村優杏・渡部晃平 (2017). 小浜島におけるマルケシゲンゴロウ属 2 種の初記録. さやばねニューシリーズ 27: 27-28.

Received: 15 December 2025 | Accepted: 14 January 2026 | Published: 17 January 2026